

DESIGN

「テーマは“手にとって触れたくなるステンレス製のフルメタルボディ”。機能美を感じる造形と独特な存在感を醸し出す佇まいは、ソリッド感や精度感を印象づけるシンプルかつ力強い造形。素材本来の魅力を引き出す金属加工仕上げ、ファイアジャスト回転機構を想起させる緻密なディテールから創り上げた」(JVCケンウッドデザイン 吉村智至氏)
サウンドキャラクターとも通じるデザインはたしかな哲学が感じられる。高級時計の「リユーズ」を思わせる、所有欲をくすぐるデザインだ。

【ダイナミック型イヤホン】

JVC SOLIDEGE 01 inner (HA-FD01)

¥OPEN(実勢価格¥40,000前後)

新開発「D3ドライバーユニット」とフルステンレスボディで、未体験の高解像度サウンドへ誘う傑作。より音質を高めるためにチタン製ドライバーケースを採用するほか、新開発の「スパイラルドット」イヤークラスやノズル交換システム、ハイグレードケーブルを同梱するなど付属品まで充実!

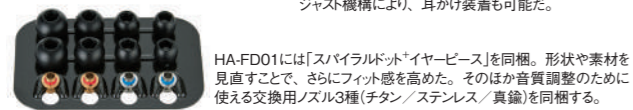
●型式密閉ダイナミック型 ●ドライバー口径11mm ●再生周波数特性8~52,000Hz ●インピーダンス16Ω ●ケーブルの長さ1.2m ●質量約20g(ケーブル除く)



CLASS-Sのロゴが記載されたキャリングケースが付属。



ケーブルはMMCXコネクタによる着脱式。ファイアジャスト機構により、耳かけ装着も可能だ。



HA-FD01には「スパイラルドット」イヤークラスを見直すことで、さらにフィット感を高めた。そのほか音質調整のために使える交換用ノズル3種(チタン/ステンレス/真鍮)を同梱する。

新たなハイエンドイヤホンの指標となる、恐ろしくコストパフォーマンスの高いフラグシップとして、いまもっとも注目すべき製品といえるだろう。

そのサウンドは楽曲の本質をとらえたストレートかつニュートラルなバランス。モニター系のドライな傾向とは違つ、鮮やかで煌びやかな艶を伴う、耳あたりよい音色である。基本的に音離れのよい爽やかな傾向で、オーケストラも粒立ち細かく滑らかな旋律を描き出す。余韻の響きも伸びよく滑らかで、立ち上がりや立ち下がりの微細な空気感も丁寧にトレースする。低域の引き締まり感も弾力を持っており、豊潤なハーモニーを楽しめる。ピアノのハーモニクスは煌びやかで、女性の声の瑞々しさ、しなやかな口元の動きが実に美しい。バランス駆動ではよりアタック・リリクスが素早く、切れ味よくスムーズなサウンドに進化。音像の輪郭のエッジ感とディテールの滑らかさの両立も見事であり、まさに王道と呼べる低重心で安定的なサウンドだ。本質に迫る高音質でありながら、楽器を艶よくハリ鮮やかに演出してくれる。

LINEUP

JVC SOLIDEGE 02 inner (HA-FD02)

¥OPEN(実勢価格¥28,000前後)

フルステンレスボディやファイアジャスト機構などの基本スペックは共通。ドライバーケースをステンレスに変更、音質カスタマイズのための付属品を標準化するなどした、お求めやすいスタンダードモデル。



子による着脱仕様で、左右独立した分離構造を持つハイグレードタイプ。芯線構成も細線を束ねる構成として伸びと繊細さを実現したという。

ニュートラルながら煌びやかな艶を伴う名機

3つの「D」を追求した至高のサウンドシグネチャー
質実剛健なメタルボディを纏うイヤホン「SOLIDEGE 01 inner (HA-FD01)」が誕生した。JVCのハイエンドモデル「CLASS-S」イヤホンとしては、独自のウッド振動板と木製ハウジングを持つ「WOOD」が担ってきた。それとはまったく異なる個性を持つ、正統派の高解像度サウンドを目指す「SOLIDEGE」のラインであり、ハウジングだけでなく、ドライバーも振動板素材から新開発したというこだわり製品だ。ボディはフルステンレスで、ドライバーは新開発「D3ドライバーユニット」を搭載する。D3とは「凛とした(Dignified)」「明快な(Distinct)」「心地よさ(Delightful)」と3つのDを意味する。振動板にはDLC(ダイヤモンドライクカーボン)ドーム採用のデュアルモルフアスカーボン振動板を取り入れるとともに、正確なストロークを生み出すアキュレートモーションエアダンプ、チタンドライバーケースによる制振構造により雑味を徹底的に排除した。デュアルモルフアスカーボン振動板とは、DLCを含む2種類のアモルフアスカーボンと2種類の高分子ポリマー(PEN、PET)を組み合わせたもので、ドーム先端はDLCとPEN、ベース部はカーボンとPETという構造からなる。ソリッドかつタイトな高解像度サウ

ンドを目指した設計というが、いわゆるモニター系とは違う、凛とした色気が漂う、煌びやかな音色を持つ。
ハウジングはノズル部分が360度回転して角度調整できる、ファイアジャスト回転機構を搭載。通常掛けと、耳掛けの両方に対応できる。また、ノズル部は外れる構造であり、その素材を標準のステンレスのほか、チタンと真鍮の合計3種類から選択できる「マウントノズル交換システム」を取り入れた。当初は他社製品でも採用されているフィルター交換機構のようにネジ留め式で検討していたようだが、不意に外れてしまうことも考えられるため、ロック機構を設けている。ロック機構はイヤークリップの陰に隠れたベント穴のように見えるが、ここまで小さい機構を取り入れつつ、5万円以内のフィルターに違いを設けるようなことはなく、あくまでノズルの素材だけに差をつけている。チタンは煌びやかな変化、真鍮は低重心の落ち着いた音質傾向だ。ノズルを外すとハウジング内の構造が分かるのだが、メカニカルなつくりはともマニア心をくすぐる。そしてもう一つのこだわりが「スパイラルドット」イヤークラスだ。素材を見直し、イヤホンとして初めてとなる低反発シリコンを採用。肌と同じ弾力特性を持つため、自然な装着性が得られる。また適度なダンピング特性により振動吸収効果もあり、出音の雑味を抑制できる。ケーブルはMMCX端

JVCがさらなる高みへ クラスエス 新章はじまる。



CLASS-S

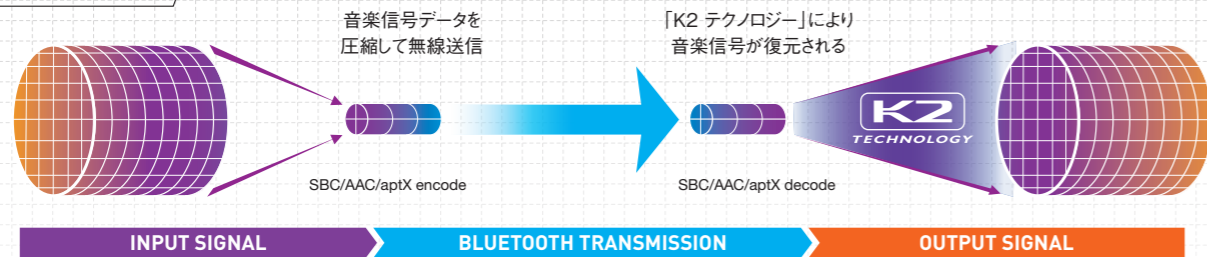
日本が誇るプレミアムブランド「JVC」。その最高峰「CLASS-S(クラスエス)」に、クールなデザインと高解像度サウンドを特長とする「SOLIDEGE(ソリデージュ)」から、凛とした音色が奏でる際立つ輪郭と伸びを追求した「01/02 inner(インナー)」が加わる。果たして、その到達点とは? オーディオ評論家、岩井喬が迫る。

取材文/岩井喬 Takashi Iwai

Bluetooth伝送に最適化された 「K2 テクノロジー」

JVCケンウッドとビクタースタジオによって共同開発された高音質化技術「K2 テクノロジー」。Bluetoothによるワイヤレス伝送に最適化したことがポイントで、SBC/AAC/aptXといったコーデックにあわせて、最適なパラメーターで処理。あらゆる音源を192kHz/24bitフォーマットの高解像度サウンドにアップコンバートする。

高音質化の仕組み



LINE UP



「K2 テクノロジー」搭載ワイヤレスヘッドホン

JVC
HA-SD70BT N_W
SOLIDEGE WIRELESS
¥OPEN (実勢価格¥27,000前後)
都会的なデザインで魅せる「N_W」シリーズのヘッドバンド型。



「K2 テクノロジー」搭載ワイヤレスヘッドホン

JVC
HA-FD70BT N_W
SOLIDEGE WIRELESS
¥OPEN (実勢価格¥25,000前後)
都会的なデザインで魅せる「N_W」シリーズのネックバンド型。

MMCXコネクター搭載
ネックバンド型
ワイヤレスオーディオレシーバー

お気に入りのプレミアムイヤホンやカスタムIEMを、ハイレゾ相当の高音質でワイヤレス化してくれる夢のようなアクセサリが登場！汎用性の高いMMCXコネクターを搭載しており、ネックバンドスタイル。連続再生約7時間でバッテリーも必要十分。ケーブルは布巻き、バンド部はソフトレザーを纏っていて肌触りもいい、まさに「CLASS-S(クラス エス)」な逸品だ。

ワイヤレスオーディオレシーバー

JVC
SU-ARX01BT
¥OPEN (実勢価格¥22,000前後)

これも注目!



「K2 テクノロジー」搭載ワイヤレスヘッドホン

JVC
HA-FX99XBT
¥OPEN (実勢価格¥25,000前後)
ズンズン響く重低音で人気を集める「XX」シリーズのネックバンド型。



JVCがハイレゾをもっと身近にする

K2
TECHNOLOGY



ワイヤレスでも音質に妥協しない。

いつでも「いい音」を求める、本物のミュージックラヴァーのために。文/編集部
あらゆる音源をハイレゾ相当にアップコンバートする JVCの独自技術「K2 テクノロジー」を搭載した Bluetoothシリーズが、次なる時代の高音質を切り拓く。

Bluetoothに最適化
なめらかさと広がり感をUP

たしかに、いちど味わうと戻れなくなるほど、ワイヤレスヘッドホンは快適だ。しかし、音質に妥協したくないという自分もいる。そんな方に、ぜひ試していただきたいのが高音質デジタル技術「K2 テクノロジー」だ。JVCケンウッド(旧・日本ビクター)とビクタースタジオが共同で開発したもので、圧縮された音源を原音に忠実に復元して、より高音質で楽しませてくれる仕組みを持つ。技術自体の歴史は古く、1987年から活用がはじまっているが、Bluetoothに最適化したというのが、新しいトピックだ。そう、年末にリリースされるJVCのワイヤレスヘッドホンには、新時代の「K2 テクノロジー」が搭載されている。あらゆる音源をハイレゾ相当(192kHz/24bit)の高解像度サウンドへとアップコンバートして再生できるだけでなく、SBC/AAC/aptXそれぞれ

それぞれのコーデックにあわせて、最適なパラメーターで処理を施していることがポイント。従来よりも低い周波数帯域まで処理を拡張している。なめらかで広がりのあるサウンドが実現できるという。ラインアップとしては、都会的なデザインを持つ「XX」シリーズから2機種、ヘビーな重低音を効かせた「XX」シリーズから1機種が登場する。いずれも「K2 テクノロジー」のON/OFFを本体でコントロールできる。もちろん、いずれもハイレゾ再生に対応する高性能なドライバーユニットを搭載している。

さらにJVCファンならずとも、ぜひ注目してほしいのが、「K2 テクノロジー」を搭載したワイヤレスオーディオレシーバー「SU-ARX01BT」だ。MMCXコネクター採用の高音質イヤホンを所有しているユーザーには、まさに福音といえるアクセサリだ。ワイヤレスの常識を覆す、ハイレゾ相当の高音質をぜひ味わってみてほしい。